上笠田城跡

永禄年中に、上笠田城を守っていた飯田佐衛門尉が、織田信長の侵攻の際に滅ぼされた。寛永年間(1624-36)に六把野井水路の掘割により城跡は分断された。現在西端頂上に城山稲荷大明神が祀られている。

八幡神社(下笠田)

天照大神は笠田御厨神明社の祭神で「神鳳抄」に「笠田御厨上三町各三石、6 月、9 月、12 月」とあり、旧字名の神田、伊勢田、大宮田、神地田、神明田、上分田、堂の前、神代淵は御厨田の名称が残ったものといわれている。明治 41 年(1908)に火産霊社を合祀する。

ねじり橋・めがね橋

楚原駅と旧上笠田駅間にある「ねじり橋」の正式名称は「六把野井水拱橋」といい、橋の下を六把野井水が斜めに交差しているため、コンクリートブロックがねじれたように積まれている。大正5年(1916)7月に竣工したこの橋は、同じ時期、明智川に架けられたコンクリートブロック造りの「めがね橋」と共に、久米村坂井の郡竹治郎が工事を請け負い、完成させた。土木史研究委員会編の『日本の近代土木遺産ー現存する重要な土木構造物2000選』に選ばれ、ねじり橋はランクA、めがね橋はランクBと評価されている。

北金井自噴井

員弁町北金井地区の自噴井は個人所有のものが4つ、南隣の西方地区にも2つが存在している。これらの自噴井は水量豊かですが鉄分の含有率が高く、いわゆる赤ソブを多く噴出し、その排水路は赤茶けて変色している。まさに「北金井」という地名は、金属(鉄分)を多く含む井戸であることを表しているものと思われる。(大安町南金井地区にも自噴井が多く存在し、同様に赤ソブの井戸が多い)。

了雲寺

真宗大谷派で、本尊は阿弥陀如来です。正安2年(1300)岐阜県海津郡吉里村(現海津市)成戸で了善により開基、はじめ天台宗でしたが、のち真宗となった。明治28年(1895)木曽三川分水工事に伴う木曽・長良両河川改修工事のため、立ち退きを迫られて、明治29年にこの地に移転した。